

## 信徒講座：宣教の使命に生きる⑦

### X. 日本教会に期待される「世界宣教」

#### 1. 日本からの海外宣教

「国内の伝道が難渋している現状で、どうして海外に働き人を送り出す余力があるか。日本こそが最大の宣教地ではないのか」という現実論を見据えつつではあるが、教会の原点に立った世界宣教への幻と計画を捉えるべきである。日本の社会と教会の閉鎖性打開の鍵は、世界宣教にある。宣教師を送り出すという犠牲を通して私達は世界の教会の一部と強く認識でき、また、報告の為に帰国する宣教師を通して、日本の教会の幻が拡大される。実際、1960年代からインマヌエルは宣教師派遣を始め、それは大きな祝福となっている。日本教会全体としては、1990年代には300人の宣教師を派遣する様になったが、その後、宣教師の数は拡大していない。

#### 2. 私の証と軌跡

1) 私に与えられた召命：伝道職への献身と海外宣教師となる挑戦。宣教師候補としてのインド留学。WGMの招きでケニア・ナクル市の教会開拓を委嘱される。

2) アフリカにおける都市伝道の必要：①都市の膨張：アフリカは基本的に農村社会であるが、第二次大戦後、都市化が進行し始め、都市人口は急増した。その理由は、農村における現金収入が限られている事、教育、行政、商工業活動が都市に集中し、近代文明の魅力もそこに集まっている事(農村のプッシュと都市のプル)である。急速な都市化が齎す歪みは深刻で、①インフラ不足(都市に必要な交通、住宅、電気、上下水道等の整備が殆どなされぬ儘、人口だけが増加し、非衛生な住居環境)が大きな問題である；②失業・半失業：仕事を求めて若者が都市に押し寄せるが、雇用状況は絶望的で、若者の約半数が失業・半失業の状態である。膨大な人口がスラム化している；③道徳の崩壊：農村では、部族の掟が支配していて、犯罪は少ないが、都市は他民族雑居状況であるから、掟は通用しない。加えて、近代文明の齎す物質的な誘惑に満ちている。それが凶悪な強盗などの犯罪に短絡する；④家庭の崩壊など深刻な問題を生んでいる。

3) 私の奉仕の概要：1979年、ケニア第四の都市ナクルでのAGC開拓伝道。諸部族融合型の教会建設。Lakeview Africa Gospel Churchの進展と、会堂建設。EE (Evangelism Explosion) を用いての近隣伝道。隣接の町村での開拓伝道。その間トリニティ神学校の学びを通して「アフリカにおける都市開拓伝道の方策」を学ぶ。WGMの働きの実であるAGCは特定の部族中心の村落教会であったが、部族融合型の都市教会を目指す様になり、都市教会開拓委員会を作った。私はその中で都市教会開拓計画づくりに参与した。1998年帰国したが、今でもケニア宣教へ関与を続けている。2023年、市橋宣教師のコイノニア教育センター開所20周年記念礼拝の為に日本人7名のグループで伺い、説教をした。また、ナクルLakeviewAGCにも伺い、良き励ましを頂いた。

#### 3. これからの日本教会と海外宣教

JOMA (Japan Overseas Mission Association) 加盟の諸教団、超教派団体は、互いの連絡を取りつつ、日本から海外への宣教師派遣を支援している。この働きが、日本における伝道の祝福となって帰ってくることを期待している。



ケニア地図